

《アンダンテと主題、変奏付(へ長調)》(1812年[推測])¹ 水谷 彰良

アンダンテと主題、変奏付(へ長調) *Andante, e Tema con Variazioni*

作曲 1812年 [推測]、ボローニャ

初演 不明

編成 フルート、クラリネット、ホルン、ファゴット

演奏時間 約10分半

自筆楽譜 パリのフランス国立図書館 (Bibliothèque nationale de France) の音楽院文庫 (fonds du Conservatoire, Ms. 13.027 総譜)。なお、ロッシェーニの自筆署名を持つ重要な手写譜がペーザロのロッシェーニ財団に所蔵 (Pesaro, Fondazione Rossini [altri Autografi n.18])

初版楽譜 Firenze, G. Cipriani, 1823. (Gossett-2001はParis and Mainz, 1827-8.としたが、その後もっと古い印刷楽譜の存在が明らかになった)

現行譜 Quaderni Rossiniani VI., Fondazione Rossini, Pesaro, 1957. (ロッシェーニ財団の手写譜に基づく) 及び下記の批判校訂版 (パリ所蔵の自筆楽譜に基づくエディション)

全集版 未成立。批判校訂版は WGR : Chamber Music without Piano., 2007. (BA 10511)

構成 へ長調、6/8拍子、アンダンテ～4/4拍子、アレグレット

解説

自筆楽譜がパリのフランス国立図書館の音楽院文庫に所蔵され、「ロッシェーニから友人トノラへ (Rossini al amico Tonola)」の献辞がある。ペーザロのロッシェーニ財団に所蔵される手写譜に、ロッシェーニ自筆で「G. ロッシェーニ」「ボローニャ、1812年」の書き込みがあるが、この記載は後年のものと思われる。そして確証はないものの、ロッシェーニが同年不詳の友人のために室内楽曲を作曲し(次の《三重奏曲》参照)、同じ編成のメルカダント《四重奏曲》が1813年に作曲されたなどの周辺状況も考慮し、この時期の作と推測されている(詳細は上記批判校訂版の序文参照)。

曲は序奏(へ長調、6/8拍子、アンダンテ)、主題と変奏(4/4拍子、アレグレット)からなり、主題と変奏は16小節の単純な主題(後半の8小節は反復)の旋律楽器を変えながら変奏する単純な形式ながら、随所にロッシェーニのオペラの楽想を思わせる洒落な音楽がある。

推薦ディスク:

- ・ Ex Novo Ensemble (1991年録音 Giulia GS201001 / Arts 47321-2)



¹ 初出は『ロッシニアーナ』第33号所収「ロッシェーニ全作品事典(25) ロッシェーニの器楽曲①」。HP用の改訂版、2015年1月。